

「第14回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 平成30年1月8日（金）

午前10時10分～午後2時40分

場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学教授）

審査員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）

審査員 遠藤由美子 氏（公立鳥取環境大学教授）

■総 評

一般部門はこれまでにないタイプの作品も数多く集まり、見ごたえのある「あかり展」となった。受賞作は完成度の高さと同時に新鮮な造形のものが選出された。

もう一歩で受賞に届かなかった作品にも秀作が多く、結果としてそれぞれ違うタイプのものが賞に選出された。

ジュニア部門は同タイプのものが多くなり今後の普及活動に課題を残した。その中で集団制作の作品は技術を越えた迫力と魅力があった。

■一般部門 講評



大 賞 【華】

安井 小百合（岐阜県多治見市）

白い和紙だけを使用しながら紙が重なる部分を切り開き、立ち上げることによって複雑な陰影が出来るよう、光の見せ方に工夫が見られる。シンプルで洗練されている紙の折り方がこれまでに無い表現で、発想が良い。紙を糸で縫う事でキルティングのような模様を出していて興味深い。



準大賞 **【サボテン】**
澤野 葉子（東京都練馬区）

色和紙の良さを前面に出した完成度の高い造形で新鮮である。エッジのきいた造形に様々な緑の和紙を使い、サボテンの花に赤色をもってくることでメリハリのきいた表現になっている。光源を少し上の位置にすると全体の形態の魅力がより出たであろう。



佳 作 **【まだらの心】**
Tyourin 美智子（京都府京都市）

紙の折り方が丁寧で綺麗に仕上がっており、白と黒だけでまとめた点も成功している。両面共に紙を少しずらして貼っているところも奥行きがあり効果的である。紙を重ねた部分の完成度にも技術の高さが見られる。



佳 作 **【さーあ行くよ!】**
秋本 政晴（兵庫県姫路市）

模様を細い線の組み合わせのみで表現し、細い枝を表面に貼ったり、部分によっては紙で挟んだりするなど表現の使い分けができています。光源を黄色にし、中心よりやや前面に取り付けた事で効果が高まった。時間や気温までも感じられそうな、非常に詩的で情緒ある作品である。

■ジュニア部門 講評



入 賞 【さようなら…】

溝内 桃（鳥取市立国府東小学校4年）

全体が落ち着いた色使いでまとまっており魅力的である。自分の表現したいものが静かに、しかし力強く伝わってくる。同タイプの中で特に心引かれる作品である。



入 賞 【秋の夜長に読書】

山本 奈緒美（城北お花塾）

小さい作品ながらも自由で大胆な華やかさがあり、独自の世界観を持った作品である。ピンクと青の和紙が良いアクセントになっている。特に青色の和紙の模様の効果がうまく出ている。



入 賞 【ヒカリカゼ】

鳥取大学附属特別支援学校中学部

天井から吊るすタイプで、全体の形に迫力があり、枝の形や和紙の貼り付け方にも自由さが感じられる。この作品の下でみんなで踊りだしたくなるような楽しい作品に仕上がっている。

■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入 賞 [縁]

灯の贈り物（鳥取県鳥取市）

和と洋どちらの良さも兼ね備えた作品といえる。シェード部分がシャープで綺麗な形である。一番上のワイヤーが丸まっているところも魅力的である。シェード部分をさらに生かす台座の工夫が必要との意見があった。



入 賞 [とっとり原木しいたけ115]

どんぐりクラブ（鳥取県鳥取市）

鳥取名物の大きなしいたけと和紙との組み合わせに圧倒的なインパクトがある。しいたけの傘の裏面も竹ひごを使い、きのこらしさがよく出ているが、台座や軸の部分の完成度が上がると良いとの意見があった。